



セカンド・パーティ・オピニオン

SECOND PARTY OPINION

東京電カリニューアブルパワー株式会社 グリーンファイナンス・フレームワーク適格性評価

Prepared by: DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

Location: 神戸, 日本

Date: 2023 年 9 月 22 日

Ref. Nr.: PRJN- 579523-2023-AST-JPN-01

目次

報告書サマリー	4
Ⅰ. まえがき	6
Ⅱ. スcopeと目的	9
Ⅲ. 東京電カリニューアルパワーおよび DNV の責任	10
Ⅳ. DNV オピニオンの基礎	11
Ⅴ. 評価作業	12
Ⅵ. 観察結果と DNV 意見	13
スケジュール 1 東京電カリニューアルパワーグリーンファイナンス 候補プロジェクト	20
スケジュール 2 グリーンファイナンス・フレームワーク適格性評価手順	21

改訂履歴

改訂番号	発行日	主な変更内容
0	2021年8月18日	初版発行 (東京電カリニューアルパワー株式会社 グリーンボンド・フレームワーク適格性債券発行前 アセスメント報告書 DNV セカンドパーティオピニオン)
1	2023年9月22日	東京電カリニューアルパワー株式会社グリーンファイナンス・フレームワークに改訂に伴う再 評価を実施 <ul style="list-style-type: none"> - 適用基準：グリーンローンに関する原則及びガイドラインを追加して再評価 - 適用基準：グリーンボンドに関する原則及びガイドライン等の最新版にて再評価 - 参照基準：CBSv4.0 に基づく技術基準の最新版にて再評価

Disclaimer

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Fundraiser to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

Statement of Competence and Independence

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct¹ during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

¹ DNV Code of Conduct is available from DNV website (www.DNV.com)

報告書サマリー

東京電力グループである東京電力リニューアブルパワー株式会社(以下、東京電力リニューアブルパワー)は、再生可能エネルギー電源への特化や、国内外のパートナーとの連携、責任と権限の明確化、資金調達を柔軟化を目的として、東京電力ホールディングス株式会社の再生可能エネルギー発電事業を承継し、2020年4月より事業を開始しました。東京電力リニューアブルパワーは、2021年8月に「東京電力リニューアブルパワー株式会社グリーンボンド・フレームワーク」を策定し、同年9月にグリーンボンドを発行しました。

今回、東京電力グループはグリーンボンドに加え、グリーンローンを推進し(以下、2つを総称して「グリーンファイナンス」)、新たにグリーンファイナンス・フレームワークとして改定しました。

東京電力リニューアブルパワーは、水力発電や風力発電等において、長年にわたり、計画から建設、O&Mまでの一貫したビジネスモデルを有しております。また、設備容量については、水力・風力・太陽光で総出力、約1,000万kWを保有しており、国内では最大の設備量を維持してきた技術力を有しています。

今後も、自然の恵みを最大限に活用して安定的に低廉な電気を届けることで、国内外に再生可能エネルギーを普及させ、グリーンでサステナブルなカーボンニュートラルの実現と地域に根差した産業の発展に貢献するとしています。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV)は外部レビュー機関として、フレームワークの適格性を評価しました。このフレームワークに基づくグリーンファイナンスにより実行される再生可能エネルギーの推進のためのグリーンプロジェクトは下表から選定されます。これらは下表に示す4つのSDGs(国連の定める持続可能な開発目標)に直接的、間接的に貢献するものです。

No.	グリーンプロジェクト	グリーンプロジェクト カテゴリ	グリーンプロジェクト 概要	SDGs への貢献
A	水力発電事業	-再生可能エネルギー に関する事業(開発、 建設、運営、改修)	-概要- 東京電力グループとして販売電力由来のCO ₂ 排出量を2030年度に50%削減(2013年度比)、2050年にエネルギー供給由来のCO ₂ 排出実質ゼロに向けた再生可能エネルギーの主力電源化へ資する取組	7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに
B	風力発電事業(洋上、陸上)			9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
C	太陽光発電事業			11. 住み続けられるまちづくりを
D	地熱発電事業			15. 陸の豊かさを守ろう

SDGsとの関連性は、グリーンボンド原則を定めるICMAが公開しているGreen, Social and Sustainability Bonds: A High-Level Mapping to the Sustainable Development Goalsを参照した、グリーンファイナンス実行に際して補完的なものであり、直接的に資金調達目的として関連付けるものではありません。

DNVはフレームワークが、グリーンボンド原則(国際資本市場協会ICMA 2021 以下、GBP)、グリーンローン原則(LMA他2023 以下、GLP)、グリーンボンドガイドライン(環境省 2022 以下、GBGLs)、グリーンローンガイドライン(環境省2022 以下、GLGLs)を適用し、また適用可能な場合にはグリーン候補プロジェクトが気候ボンド基準(CBI、v4.0 以下CBS)の技術基準を参照し、適格性評価を提供します。GBP、GLP、GBGLs、およびGLGLsで示される4つの要素に対する評価結果概要は以下の通りです。

要素 1. 調達資金の用途：

グリーンファイナンス調達資金を、再生可能エネルギーに関する事業(開発、建設、運営、改修)に充当する計画としており、今回のフレームワークでは水力発電事業、風力発電事業(洋上、陸上)、太陽光発電事業および地熱発電事業を資金用途とする新規支出(事業に関わる費用等の補助的な支出や、一部の更新投資を含む)およびリファイナンスを予定しています。これら東京電力リニューアブルパワーの事業を通じて東京電力グループにおける再生可能エネルギーの主力電源化を通じた、カーボンニュートラルの実現に貢献します。

要素 2.プロジェクトの評価と選定のプロセス：

東京電力リニューアブルパワーは、東京電力グループが策定する環境方針に基づき、2030年および2050年を見据えたCO₂排出量削減に寄与する再生可能エネルギーに関わる目標を掲げています。グリーンプロジェクトの評価および選定は、再生可能エネルギーに関する事業を所管する部門が社内プロセスに基づきプロジェクト候補を選定し、ネガティブな環境面・社会面の影響に配慮しているものであり対象設備、案件において設置国・地域・自治体で求められる設備認定・許認可の取得および環境アセスメントの手続きが適正であることを経営企画室により、適格クライテリアへの適合性を確認します。これらのプロセスはGBP、GLP、GBGLsおよびGLGLsに合致するものです。

要素 3.調達資金の管理：

調達資金全額は東京電力リニューアブルパワー経営企画室にて、社内システムおよび帳票等を用いてプロジェクト毎の充当管理を行い、グリーン適格プロジェクトの合計金額が下回らないように戦略投資案件管理表及び予算月報データベースを用いて管理します。調達資金は充当までの間、調達資金と等しい額を現金又は現金同等物にて管理されます。

要素 4.レポーティング：

東京電力リニューアブルパワーは、調達資金の全額が充当されるまでの間、ウェブサイトにおいて調達資金の充当状況を報告、もしくは、貸し手に対して開示（ローンの場合のみ）する予定です。この中には未充当金の残高、充当金額、調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算額（または割合）が含まれます。また、環境改善効果として、再生可能エネルギー種別の年間CO₂排出削減量又は設備容量に関連する指標のいずれかまたは全てを開示することを予定しています。

DNVは、フレームワークをはじめとする東京電力リニューアブルパワーより提供された関連文書・情報から、グリーンファイナンスが関連する基準を満たし、適切に計画され、実施される見込みであることを確認しました。

I. まえがき

i. 資金調達者について

東京電力グループである東京電力リニューアブルパワーは、再生可能エネルギー電源に特化し、責任と権限を明確化すること、さらに、それを支える資金調達を柔軟化させることを目的として、東京電力ホールディングス株式会社の再生可能エネルギー発電事業を承継し、2020年4月より事業を開始しました。

ii. 東京電力リニューアブルパワー環境への取組

東京電力リニューアブルパワーは、現在、水力・風力・太陽光で合わせて国内最大級となる約 1,000 万 kW の発電設備容量を有し、東京電力グループの環境への取組として、「カーボンニュートラルの実現」、「環境負荷の低減」、「生物多様性の保全」および「エンゲージメントの強化」を掲げています。また、東京電力グループは、環境目標として具体的な CO₂ 排出量の削減（販売電力由来の CO₂ 排出量を 2030 年度に 50%削減(2013 年度比)、2050 年にエネルギー供給由来の CO₂ 排出実質ゼロ）を表明しており、その中で、東京電力リニューアブルパワーは、東京電力グループにおける再生可能エネルギーの主力電源化を推進しています。

東京電力リニューアブルパワーは、このグリーンファイナンスを通じて幅広いステークホルダーの皆様へ、東京電力リニューアブルパワーの取組みを発信する機会と捉えるとともに、カーボンニュートラルの実現に貢献することを意図しています。

2023年3月時点の設備規模

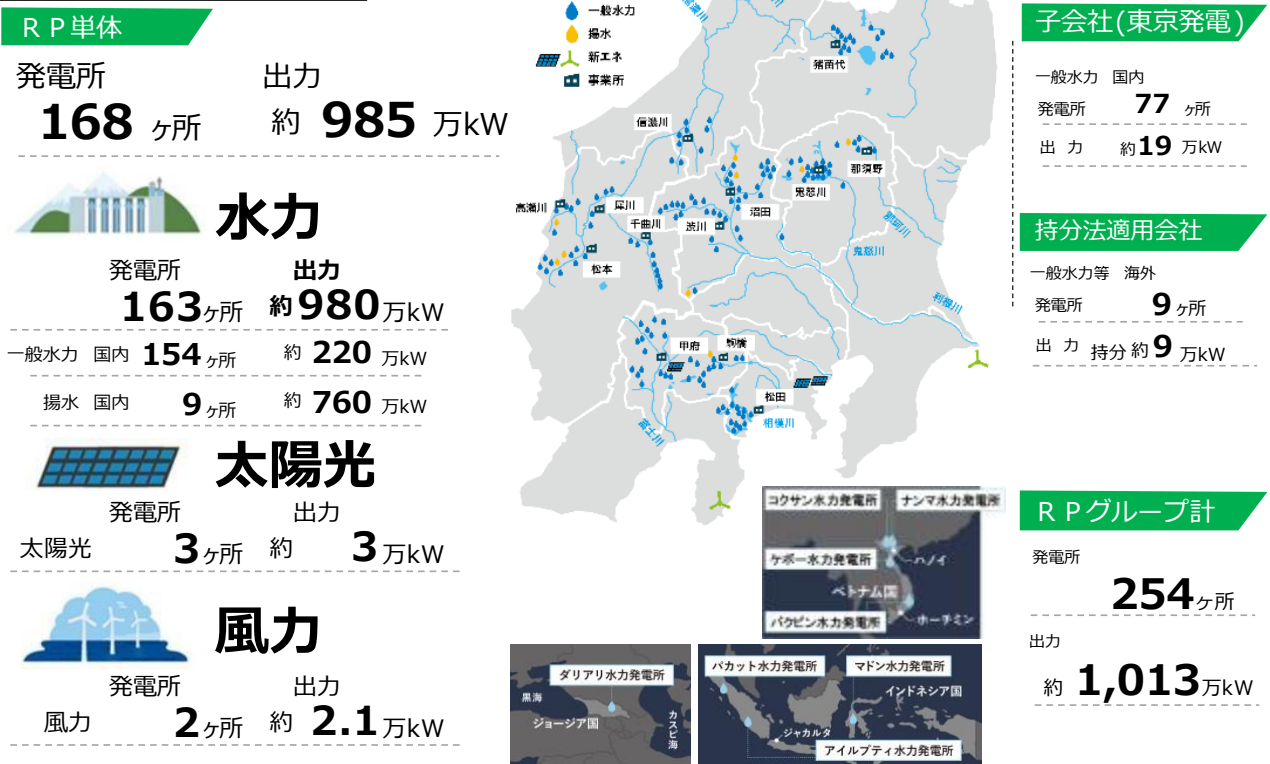


図-1 東京電力リニューアブルパワー 発電設備と保有設備

その他、東京電力グループは、下記の環境マネジメントおよび ESG への取組を実施しています。

- ESG 推進体制の強化(ESG 委員会、ESG 推進室の設置)
- 環境管理推進体制の構築
- 各種イニシアティブへの参加
 - ・ 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)
 - ・ 「EV100」「EV30@30」
 - ・ 米国サステナビリティ会計基準審議会 (SASB)
 - ・ CDP(気候変動など環境分野に取り組む国際 NGO)
 - ・ GX リーグ
 - ・ 生物多様性のための 30by30 アライアンス
 - ・ サステナビリティ基準委員会 (SSBJ)

iii. フレームワークについて

東京電カリニューアルパワーは、グリーンファイナンス実行に当たり、GBP、GBGLs、GLP および GLGLs に基づき、フレームワークを確立しました。

グリーンファイナンスで調達した資金の手取金全額は、下記のグリーンプロジェクトの何れかまたは全てに充当することを計画しており、確立したフレームワークに基づき管理・実行されます。

再生可能エネルギーに関する事業

- ・ **再生可能エネルギー(水力・風力・太陽光・地熱)の開発、建設、運営、改修**

東京電カグループでは、エネルギーに密接にかかわる以下の4つのSDGsの課題解決に向けて取り組んでいます。今回のグリーンファイナンスでは、特に目標7、目標9を中心としたSDGsに直接的、間接的に関連し、貢献する取り組みです。

東京電カグループのSDGs達成への貢献

東京電カグループの取組	SDGs		
<ul style="list-style-type: none"> - エネルギーの低炭素化 - 電化の推進 	目標 7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	
<ul style="list-style-type: none"> - 技術開発 	目標 9	産業と技術革新の基盤をつくろう	
<ul style="list-style-type: none"> - エネルギーの安定供給 - 防災対策 	目標 11	住み続けられるまちづくりを	
<ul style="list-style-type: none"> - 自然環境との共生 	目標 15	陸の豊かさを守ろう	

* SDGsとの関連性は、グリーンボンド原則を定めるICMAが公開しているGreen, Social and Sustainability Bonds: A High-Level Mapping to the Sustainable Development Goalsを参照した、グリーンファイナンス実行に際して補完的なものであり、直接的に資金調達目的として関連付けるものではありません。



図 東京電カグループのSDGsへの取組み

資金調達者名称：東京電カリニューアルパワー株式会社

フレームワーク名：東京電カリニューアルパワー株式会社 グリーンファイナンス・フレームワーク

外部レビュー機関名：DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

報告書作成日：2023年9月22日

II. スコープと目的

東京電カリニューアルパワーは DNV に「東京電カリニューアルパワーグリーンファイナンス」の実行前評価を委託しています。DNV におけるファイナンス実行前評価の目的は、東京電カリニューアルパワーが、後述する基準である GBP、GLP、GBGLs、GLGLs および適用可能な CBS の関連する技術基準、他に関連する基準もしくはガイドライン (下表参照) に合致していることを確認するための評価を実施し、このグリーンファイナンスの適格性についてセカンドパーティ・オピニオンを提供することです。

DNV は独立した外部レビュー機関としてセカンドパーティ・オピニオンの提供に際し、東京電カリニューアルパワーとは事実および認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。

また、この報告書では、グリーンファイナンスの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の環境便益に関する保証も提供されません。

(1) レビューの範囲

レビューは以下の項目について評価し、GBP、GLP の主要な 4 要素の主旨との整合性について確認されました。

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の使途 | <input checked="" type="checkbox"/> プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| <input checked="" type="checkbox"/> 調達資金の管理 | <input checked="" type="checkbox"/> レポートニング |

(2) レビュー提供者の役割

- | | |
|---|------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> セカンド・パーティ・オピニオン | <input type="checkbox"/> 認証 |
| <input type="checkbox"/> 検証 | <input type="checkbox"/> 格付け |
| <input type="checkbox"/> その他: グリーンファイナンス実行登録支援者(外部レビュー部門)としてレビューを提供 | |

(3) 適用又は参照される基準

No.	基準もしくはガイドライン	発行者	適用レベル*1*2
1.	グリーンボンド原則	国際資本市場協会 (ICMA)、2021	適用
2.	グリーンボンドガイドライン	環境省、2022	適用
3.	グリーンローン原則	ローン・マーケット・アソシエーション(LMA) 他、2023	適用
4.	グリーンローンガイドライン	環境省、2022	適用
5.	気候ボンド基準 4.0 版 (セクター技術基準)	気候ボンドイニシアチブ、2023	参照 (参照可能な技術基準)
6.	グリーンボンドおよびソーシャルボンド: 持続可能な開発目標(SDGs)に照らしたハイレベルマッピング	国際資本市場協会 (ICMA)、2022	参照
7.	インパクトレポートニング調和化に関する冊子	国際資本市場協会 (ICMA)、2022	参照

*1 適用: 各原則やガイドライン共通の 4 つの核全てに対する適格性を評価した。

*2 参照: 対象となるグリーンプロジェクトや実行計画に基づき、関連する内容を部分的に考慮した。



Ⅲ. 東京電カリニューアルパワーおよび DNV の責任

東京電カリニューアルパワーは、DNV がレビューを実施する間に必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンドパーティ・オピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについて東京電カリニューアルパワーおよびファイナンスの利害関係者に情報提供することを意図しています。その業務において我々は、東京電カリニューアルパワーから提供された情報および事実に依拠しています。DNV は、この意見表明の中で参照する選定された資産のいかなる側面に対して責任がなく、また試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV は、東京電カリニューアルパワーの関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

IV. DNV オピニオンの基礎

DNV は、資金調達者にとってより柔軟なグリーンファイナンス適格性評価手順（以下、「手順」）を適用するために、GBP、GLP、GBGLs および GLGLs の要求事項を考慮した東京電力リニューアブルパワーグリーンファイナンス評価手順を作成しました。スケジュール-2 を参照してください。この手順は GBP、GLP、GBGLs および GLGLs に基づくグリーンファイナンスに適用可能です。

DNV の手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、グリーンファイナンスが「環境への利益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」というものです。

DNV の手順に従って、レビュー対象であるこのグリーンファイナンスに対する基準は、以下の 4 つの要素にグループ分けされます。

- **要素 1：調達資金の使途**：調達資金の使途の基準は、グリーンファイナンスの資金調達者がグリーンファイナンスにより調達した資金を適格プロジェクトに使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境改善効果を提供するものです。
- **要素 2：プロジェクトの評価および選定のプロセス**：プロジェクトの評価および選定の基準は、グリーンファイナンスの資金調達者が、グリーンファイナンスによる調達資金を使途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。
- **要素 3：調達資金の管理**：調達資金の管理の基準は、グリーンファイナンスが資金調達者によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。
- **要素 4：レポート**：レポートの基準は、グリーンファイナンスの利害関係者に対して、少なくとも、資金の充当状況および可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

V. 評価作業

DNV の評価作業は、資金調達者によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

i. グリーンファイナンス実行前アセスメント

- この評価に資する上述およびスケジュール-2 に関し、グリーンファイナンスの適用を目的とした資金調達者特有の評価手順の作成。
- このグリーンファイナンスに関して資金調達者より提供された根拠文書の評価、および包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティスおよび標準方法論を参照。
- 資金調達者との協議および、関連する文書管理のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。

VI. 観察結果と DNV 意見

DNV の観察結果と意見は以下の通りです。

(1) 調達資金の用途

DNV は東京電力リニューアブルパワーがグリーンファイナンスにより調達した資金全額のうち、経費を除く手取金の全てが GBP、GLP、GBGLs および GLGLs で示される以下の代表的な適格プロジェクトカテゴリに合致したグリーン候補プロジェクトに新規支出およびファイナンスとして充当される計画であることを確認しました。

「再生可能エネルギーに関する事業」

具体的には再生可能エネルギーに関する事業は、以下の 4 つに分類されるプロジェクトの開発、建設、運営、改修です。

プロジェクト No.	再生可能エネルギーに関する事業(プロジェクト)
プロジェクト A	水力発電事業
プロジェクト B	風力発電事業(洋上、陸上)
プロジェクト C	太陽光発電事業
プロジェクト D	地熱発電事業

DNV は水力発電事業、風力発電事業(洋上、陸上)、太陽光発電事業および地熱発電事業が、幅広く認知された再生可能エネルギーに関する事業であると理解しています。一方、いずれも、事業実施にあたり付随的な CO₂ 排出等による温室効果ガス(GHG)排出の考慮や、周辺環境および社会的な影響への配慮と対応が求められています。DNV ではアセスメントを通じ、東京電力リニューアブルパワーが、関連する法令・条例への対応を含め、これらに対しどのように対処しているか、または対処する計画であるかを確認し、その妥当性を確認しました。以下にその概要を示します。

各プロジェクトに共通する対応については、次項「(2)プロジェクトの評価と選定プロセス」に記載しています。

プロジェクト	周辺環境および社会的な影響に対する妥当性の確認結果 概要
<p>プロジェクト A 水力発電事業</p>	<p>水力発電(国内)：対象となる整備増強事業に伴う周辺環境への影響や他の利水関係者への追加的な影響が無いこと等を確認している、又は確認する計画です。</p> <p>水力発電(海外)：赤道原則等により必要な周辺環境および社会的な配慮と対応が適切になされていることを確認しました。</p> <p>また、揚水設備を有する水力発電所が再生可能エネルギーの断続的な運用を補完することを目的とすることが示されている国家プロジェクトに含まれることを確認しました。</p> <p>国内、海外のいずれのプロジェクトも貯水池を有する水力発電事業については所定の W/m²基準(CBSv4.0に基づく技術基準)を満足していることを確認しました。</p>
<p>プロジェクト B 風力発電事業 (洋上、陸上)</p>	<p>洋上風力発電：現時点で計画段階の案件を含んでいます。設置認可・許認可の取得に向けた取組み、必要な環境アセスメント、またこれらを通じて海洋・沿岸利用における社会的な配慮への対応が進捗していることを確認しました。さらに洋上風力発電は、洋上発電設備となることから、維持・管理も高い技術レベルが求められますが、必要な対応が進められることをアセスメントを通じて確認しました。</p> <p>陸上風力発電：対象事業は、陸上風力発電に関連する設備および運転に関連する活動に限定されます。環境アセスメント等を通じ環境影響への対処が実施されている又は今後実施される計画であることを、アセスメントを通じて確認しました。</p>
<p>プロジェクト C 太陽光発電事業</p>	<p>太陽光発電：対象事業は、化石燃料を使用する発電設備を付帯しない太陽光発電単体のプロジェクトであることを確認しました。</p>
<p>プロジェクト D 地熱発電事業</p>	<p>地熱発電：計画時や実施時において関連する法令や条例を遵守し、また、必要な場合には付随的に発生する GHG 排出を考慮する計画であることを確認しました。</p>

GBP・GLP で分類される調達資金の用途

<input checked="" type="checkbox"/>	再生可能エネルギー	<input type="checkbox"/>	エネルギー効率（省エネルギー）
<input type="checkbox"/>	汚染防止および抑制	<input type="checkbox"/>	生物自然資源および土地利用に係る環境持続型管
<input type="checkbox"/>	陸上および水生生物の多様性の保全	<input type="checkbox"/>	グリーン輸送
<input type="checkbox"/>	持続可能な水資源および廃水管理	<input type="checkbox"/>	気候変動への適応
<input type="checkbox"/>	高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術およびプロセス	<input type="checkbox"/>	地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング
<input type="checkbox"/>	その他(具体的に記載)		
<input type="checkbox"/>	グリーンファイナンス実行時には未定であるが、現時点で GBP・GLP 分類または、GBP・GLP には記載されていない他の適格分野に適合することが予想される		

(2) プロジェクトの評価と選定プロセス

DNV はレビューを通じて、スケジュール-1 に記載される 4 つのグリーン候補プロジェクト A、B、C および D が、資金調達者の母体である東京電力グループが策定するグループ環境方針に基づき掲げられたカーボンニュートラルの実現に向けた CO₂ 排出量削減に寄与する再生可能エネルギーに関わる目標に適合し、資金調達者の再生可能エネルギーに関する事業を所管する各部署および経営企画室において、適切な所定のプロセスを経て評価および選定されることを確認しました。

プロジェクトの選定に当たっては「Ⅱ項 スコープと目的 (3) 適用される基準もしくはガイドライン」に示す適格クライテリアに合致すると共に、プロジェクトの実行に伴うネガティブな影響を考慮する必要があると判断された場合には、下記の環境・社会的リスクを低減する取り組みが実施されていることを確認します。

- 対象設備、案件において設置国・地域・自治体で求められる設備認可・許認可の取得および環境アセスメントの手続きが適正であること

評価および選定

<input checked="" type="checkbox"/>	資金調達者の環境貢献目標の達成に合致していること	<input checked="" type="checkbox"/>	プロジェクトが定義された適格カテゴリに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価および選定されていること
<input checked="" type="checkbox"/>	グリーンファイナンスの調達資金の用途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること	<input checked="" type="checkbox"/>	プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価および選定されていること
<input checked="" type="checkbox"/>	公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること	<input type="checkbox"/>	(具体的に記載):

責任に関する情報および説明責任

<input checked="" type="checkbox"/>	外部機関による助言若しくは検証による評価/選定基準	<input checked="" type="checkbox"/>	組織内部での評価
<input type="checkbox"/>	その他(具体的に記載):		

(3) 調達資金の管理

DNV は、東京電カリニューアルパワーが資金調達から充当完了までの間、どのように資金を追跡管理するかについて確認しました。DNV は東京電カリニューアルパワーが資金調達後、適時、適格プロジェクトのファイナンス(新規支出)およびファイナンスに充当する計画であることを確認しました。

資金充当状況については、東京電カリニューアルパワーの内部管理手順に基づきプロジェクト毎に、経営企画室が管理することを確認しました。また、グリーン適格プロジェクトの合計金額がグリーンファイナンスの調達額を下回らないように社内システム・帳票等を用いて管理することを確認しました。

調達資金は、充当されるまでの間は、現金又は現金同等物にて管理する予定です。

調達資金の追跡管理:

<input checked="" type="checkbox"/>	グリーンファイナンスにより調達された資金のうち充当を計画している一部若しくは全ての資金は、資金調達者により体系的に区別若しくは追跡管理される
<input checked="" type="checkbox"/>	未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
<input type="checkbox"/>	その他 (具体的に記載):

追加的な開示情報:

<input type="checkbox"/>	新規投資のみに充当	<input checked="" type="checkbox"/>	既存および新規投資の両方に充当
<input type="checkbox"/>	個別(プロジェクト)の支出に充当	<input checked="" type="checkbox"/>	ポートフォリオの支出に充当
<input type="checkbox"/>	未充当資金のポートフォリオを開示	<input checked="" type="checkbox"/>	その他(具体的に記載):グリーンファイナンス充当対象となった事業の既存投資、新規支出の額は年次報告で開示予定

(4) レポーティング

DNVはGBP、GLP、GBGLsおよびGLGLsで要求されるグリーンファイナンス特定の情報に関して、資金調達者のウェブサイトにて年次報告、もしくは、貸し手に対して開示（ローンの場合のみ）する予定であることを確認しました。

年次報告は、資金の全額について充当が完了するまで、下記に記載する資金充当状況および環境改善効果を報告する予定です。また、環境改善効果については、守秘義務の範囲内、かつ、合理的に実行可能な限りにおいて、記載される項目のいずれかまたは全てを開示する予定です。プロジェクトに重大な変化があった場合は適時その旨を開示する予定です。

主要な報告項目は以下を予定しています。

<資金充当状況>

- 未充当金の残高
- 充当金額
- 調達資金のうちリファイナンスに充当された額の概算
※グリーンローンで調達金額を非公開とする場合等は調達金額に対する割合

<環境改善効果> ※下記のいずれかまたは全てを開示予定

- 再生可能エネルギー種別の年間CO₂排出削減量（t-CO₂/年）
- 再生可能エネルギー種別の設備容量（MW）

資金充当状況に関する報告事項:

<input type="checkbox"/>	プロジェクト単位	<input checked="" type="checkbox"/>	プロジェクトポートフォリオ単位
<input type="checkbox"/>	関連する個々の債券/ローン単位	<input type="checkbox"/>	その他(具体的に記載):

報告される情報:

<input checked="" type="checkbox"/>	資金充当額	<input checked="" type="checkbox"/>	投資総額のうちグリーンファイナンスにより充当された額割合
<input type="checkbox"/>	その他(具体的に記載):	<input type="checkbox"/>	

頻度:

<input checked="" type="checkbox"/>	毎年	<input type="checkbox"/>	半年ごと
<input type="checkbox"/>	その他(具体的に記載):	<input type="checkbox"/>	

インパクトレポート (環境改善効果) :

<input type="checkbox"/>	プロジェクト単位	<input checked="" type="checkbox"/>	プロジェクトポートフォリオ単位
<input type="checkbox"/>	関連する個々の債券/ローン単位	<input type="checkbox"/>	その他(具体的に記載):

頻度:

<input checked="" type="checkbox"/>	毎年	<input type="checkbox"/>	半年ごと
<input type="checkbox"/>	その他(具体的に記載):	<input type="checkbox"/>	

報告される情報 (予測される効果、若しくは発行後):

<input type="checkbox"/>	GHG 排出量/削減量	<input checked="" type="checkbox"/>	エネルギー削減量
<input type="checkbox"/>	その他の ESG 評価項目(具体的に記載):	<input type="checkbox"/>	充当対象となった再生可能エネルギー種別の設備容量 (MW)

開示方法

<input type="checkbox"/>	財務報告書に記載	<input type="checkbox"/>	サステナビリティレポートに記載
<input type="checkbox"/>	臨時報告書に記載	<input checked="" type="checkbox"/>	その他(具体的に記載) : 東京電力リニューアブルパワーウェブサイト もしくは、ローンの場合、貸し手に対して開示
<input type="checkbox"/>	レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載) :		

評価結果

DNV は、東京電力リニューアブルパワーから提供された情報と実施された業務に基づき、東京電力リニューアブルパワーがグリーンファイナンス適格性評価手順の要求事項を満たしており、GBP、GLP、GBGLs および GLGLs の「環境への利益をもたらす新規プロジェクトもしくは既存プロジェクトへの資本調達および投資を可能にする」というグリーンファイナンスの定義・目的と一致していることを意見表明します。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2023 年 9 月 22 日



前田 直樹

代表取締役社長

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



金留 正人

プロジェクトリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



橋本 寿士

アセスメントリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

Disclaimer

Responsibilities of the Management of the Fundraiser and the Second-Party Opinion Providers, DNV : The management of Fundraiser has provided the information and data used by DNV during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Fundraiser management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Fundraiser. DNV is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV shall not be held liable if any of the information or data provided by the Fundraiser's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete.

スケジュール 1 東京電力リニューアブルパワーグリーンファイナンス 候補プロジェクト

No.	グリーンプロジェクト分類	グリーンプロジェクト ^{*1}	グリーンプロジェクト概要 ^{*2}
A	再生可能エネルギーに関する事業	水力発電事業	① 水力発電事業の開発、建設、運営、改修 ② 水力発電事業への投融資
B		風力発電事業(洋上、陸上)	① 風力発電事業(洋上、陸上)の開発、建設、運営、改修 ② 風力発電事業(洋上、陸上)への投融資
C		太陽光発電事業	① 太陽光発電事業の開発、建設、運営、改修 ② 太陽光発電事業への投融資
D		地熱発電事業	① 地熱発電事業の開発、建設、運営、改修 ② 地熱発電事業への投融資

*1：東京電力リニューアブルパワーグリーンファイナンスはスケジュール-1 に記載されるグリーンプロジェクトから選定し、何れか又は複数のプロジェクトに充当され、充当対象となったプロジェクトによる環境改善効果について再生可能エネルギー種別にて年次報告で開示される予定です。

*2：各グリーンプロジェクトは国内及び海外の何れか又は両方で実施される計画です。

スケジュール 2 グリーンファイナンス・フレームワーク適格性評価手順

下記 GBP-1 ~ GBP-4 及び GLP1~GLP4 は、グリーンボンド原則 2021 及びグリーンローン原則 2023 を基に作成された DNV のグリーンファイナンス・フレームワーク適格性評価手順です。

また、以下開示要求項目等で「発行体」「投資家」は、適宜、それぞれ「資金調達者」「貸し手」と読み替える場合があります。

GBP-1/GLP-1 調達資金の用途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	資金の種類	グリーンボンドおよびローンの種類は GBP/GLP で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 <ul style="list-style-type: none"> ・(標準的)グリーンボンド及びローン ・グリーンレベニューファイナンス ・グリーンプロジェクトファイナンス ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・フレームワーク等の文書確認 ・東京電カリニューアルパワー関係者（以下、関係者）へのインタビュー 	以下のカテゴリに分類されることを確認した。 (標準的)グリーンボンド及びローン
1b	グリーンプロジェクト分類	グリーンボンド及びローンにおいて肝要なのは、その調達資金がグリーンプロジェクトのために使われることであり、そのことは、証券に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ・フレームワーク等の文書確認 ・関係者へのインタビュー 	<p>調達資金の全額を「再生可能エネルギーの開発、建設、運営、改修に関する事業の新規支出およびリファイナンスに充当する予定」であることが、証券に係る法的書類等に適切に記載される計画であることが確認された。</p> <p>具体的には、以下のグリーンプロジェクトに充当される予定である。</p> <p>プロジェクト A：水力発電事業</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 水力発電事業の開発、建設、運営、改修 ② 水力発電事業への投融資 <p>プロジェクト B：風力発電事業(洋上、陸上)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 風力発電事業(洋上、陸上)の開発、建設、運営、改修 ② 風力発電事業(洋上、陸上)への投融資

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
				<p>プロジェクト C : 太陽光発電事業</p> <p>① 太陽光発電事業の開発、建設、運営、改修</p> <p>② 太陽光発電事業への投融資</p> <p>プロジェクト D : 地熱発電事業</p> <p>① 地熱発電事業の開発、建設、運営、改修</p> <p>② 地熱発電事業への投融資</p>
1c	環境面での便益	調達資金使途先となる全てのグリーンプロジェクトは明確な環境面での便益を有すべきであり、その効果は発行体によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> フレームワーク等の文書確認 関係者へのインタビュー 	グリーンプロジェクトは、再生可能エネルギーの主力電源化を通じた CO ₂ 排出量削減として環境面での便益を有し、その環境改善効果は再生可能エネルギー種別の設備容量又は CO ₂ 排出削減量として定量的に評価され、年次報告されることを確認した。
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、発行体は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	<ul style="list-style-type: none"> フレームワーク等の文書確認 関係者へのインタビュー 	東京電カリニューアルパワーは、調達資金を新規支出、リファイナンスの何れか又は両方に使用する計画であるが、実行前に決定していない。これらは年次報告を通じて、調達資金のうちリファイナンスに充当された部分の概算額を明らかにする予定であることを確認した。

GBP-2/GLP-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	グリーンボンド及びローンの発行体はグリーンボンド及びローン調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない)。 <ul style="list-style-type: none"> 発行体が、対象となるプロジェクトが適格なグリーンプロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス グリーンボンド及びローン調達資金の用途となるプロジェクトの適格性についての規準作成 環境面での持続可能性に係る目標 	<ul style="list-style-type: none"> フレームワーク等の文書確認 関係者へのインタビュー 	東京電カリニューアルパワーはグリーンファイナンス調達資金の用途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセスを有しており、その概要をフレームワークの中で明記していることを確認した。 また、発電所別固有の環境・社会影響評価に対し適切な対応が実施されていることをアセスメントを通じて確認した。
2b	発行体の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	グリーンボンド及びローンプロセスに関して発行体により公表される情報には、規準、認証に加え、グリーンボンド及びローンの投資家は発行体のフレームワークや環境に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。	<ul style="list-style-type: none"> フレームワーク等の文書確認 関係者へのインタビュー 	東京電カリニューアルパワーの実施するグリーンプロジェクトは、東京電カリニューアルパワーが属する東京電力グループの環境への取組・環境方針と一致していること、また、プロジェクトの実行にあたっては、各国の法制度に基づき、環境側面が十分に配慮され、段階的に順次公開されるプロセス上にあることを確認した。また、発電所種別固有の環境・社会影響評価が、関連する技術基準等を参照し考慮されていることを確認した。 DNVはフレームワーク等の文書の確認や関係者へのインタビューを通じて確認した。

GBP-3/GLP-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	グリーンボンド及びローンによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、グリーンプロジェクトに係る発行体の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、発行体によって証明されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> フレームワーク等の文書確認 関係者へのインタビュー 	グリーンファイナンスによって調達される資金に係る手取金は、資金調達者の社内システム・帳票等により追跡可能であり、DNVは実際に使用されているシステム及び関連文書等の確認を行い、これに基づき調達資金の管理状況が証明されることを確認した。

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3b	調達資金の追跡管理-2	グリーンボンドの償還期間及びグリーンローンの弁済期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> フレームワーク等の文書確認 関係者へのインタビュー 	DNVはグリーンファイナンスの調達資金が実際のグリーン適格プロジェクトの合計額を下回らないように、経営企画室が定期的に（少なくとも年次で）グリーンファイナンスの調達資金を3aに記載する社内システム・帳票等でレビューする計画であることを確認した。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるグリーンプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、発行体は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	<ul style="list-style-type: none"> フレームワーク等の文書確認 関係者へのインタビュー 	資金調達者の社内システム・帳票及び社内規程に基づく確認プロセスを通じて、未充当金の残高が逐次認識される仕組みであることを確認した。DNVは、未充当資金の残高が現金又は現金同等物で管理されることをフレームワークの記載及び検証を通じて確認した。未充当金の残高は、資金充当状況のレポートを通じて、明らかにされる予定であることを確認した。

GBP-4/GLP-4 レポーティング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	<p>調達資金の使途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、発行体はグリーンボンド及びローンで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 守秘義務や競争上の配慮 - 各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果 	<ul style="list-style-type: none"> • フレームワーク等の文書確認 • 関係者へのインタビュー 	<p>DNVは、調達資金が充当されるまでの間、東京電力リニューアブルパワーがグリーンファイナンスの年次報告を実施し、資金充当状況、資金が充当されたプロジェクト又は環境改善効果に関する情報を開示することを確認した。</p> <p>環境改善効果は、守秘義務の範囲内、かつ、合理的に実行可能な限りにおいて、下記の何れか又は全てを開示することを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 再生可能エネルギー種別の年間 CO₂ 排出削減量 (t-CO₂/年) • 再生可能エネルギー種別の設備容量 (MW)